

2 静浦地区小中一貫校設置について

(1) 小中一貫教育の必要性

現在、小中一貫教育は全国的に注目されており、小学校から中学校へ進学する際の、学習面・生活面での急激な変化を緩和できることや、小中学校の先生が一体となって子どもを支援していくことができることなどから、教育効果が高いと言われている。

また、小学校1年生から中学校3年生までの幅広い異年齢集団による、いろいろな活動が設定しやすいので、たくましい心と体、思いやりの心や責任感を育む教育が期待できる。

静浦地区においても小中一貫校にすることで、小中学校の児童生徒数減少と中学校の立地問題を併せて解決できる。また、小中学校の小規模化に伴う教員の配置数の減少に対し、教員の相互乗り入れなどによりその影響を緩和できることや教科の専門性が確保しやすいことから、より充実した教育が行われるなどの利点がある。さらに、新しい教育環境の中で、子どもたちが切磋琢磨しながら、物事に取り組む意欲や忍耐強さ、継続する力などもしっかり身につけることができるものとする。

< (1)、(2) について検討委員の意見から >

- 中1ギャップの解消、小集団化による切磋琢磨がなくなることの解消、9年間を見通した子どもの発達に合わせた教育内容が考えられるなど、小中一貫校にするメリットがある。
- 一つの中学校と三つの小学校が別々では連携が困難である。一つの学校ならば、小学校と中学校がお互いの良いところを共有し、足りないところを補い合うことができる。
- 理科室、音楽室など、現状でも中学校の方が施設が整っている。小中一貫校にすれば、小学生でも良い設備、備品を活用できる。カリキュラム以外でも多様なメリットが考えられる。
- 小中一貫校にして、学校規模が大きくなることで、配置される教員数も増える。それにより、専門の教員による充実した授業が可能となる。

(2) 魅力ある小中一貫校にするためには

小中一貫校を設置するに当たっては、子どもたちの発達段階に応じた計画的・継続的な教科指導・生活指導ができるよう、特色ある魅力的な教育課程を検討していく必要がある。

子どもたち一人一人にきめ細かい教育や、小学校高学年からの教科担任制ができるような余裕のある教員配置にしてほしい。また、学校施設・設備は、小学校1年生から中学校3年生までがゆとりをもって使用できるようにし、少人数指導など工夫した指導形態がとれるような特別教室も整備してほしい。

小中一貫教育を充実させていくためには、現在の三つの小学校と中学校を統合し一体化させる必要があり、学校設置場所は、静浦の中間地点である大久保周辺にすることが望ましい。

○これまで各学校において、地域に根ざした特色ある教育が推進されてきていることも考慮し、地域の伝統・文化・自然環境などを生かした教育を維持・発展させてほしい。

○子どもたちが野球やサッカーをすることができる十分な広さのグラウンドにしてほしい。また、運動会などの学校行事で地域の保護者が大勢集まることを考え、駐車場も十分確保してほしい。

○現在の小学校に三つの小学校を統合するのは無理である。新しい場所に新しい学校を作してほしい。

○学校の統合に伴い、地域の子どもたちが隣接校に通うようになったら、子供会も自治会も分断してしまう。そのためにも、魅力ある教育内容や施設を検討していくことが必要。地域の保護者がこういう学校にわが子を行かせたいと思うような学校を作っていくことが大事である。

○沼津で初めての小中一貫校となるので、モデルとなるような魅力的な小中一貫教育をこの静浦から発信していきたい。